

【 防災講演会 】



講演を聞く様子



「非常持ち出し袋」の紹介

近藤ひろ子氏をお招きし、「一人一人が『防災実践者』～中学生だからこそできること～」と題して講演会を行いました。その中で、防災とは「命を守ること」だけでなく、「みんなと一緒に生き延びていくこと」であること示唆いただきました。そして、「中学生は地域の大きな力になれる！」との熱いメッセージを送っていただきました。



- ・災害時に備え、普段から自分のことだけでなく、他の人にも目を向けて生活していかなければならないことが分かりました。
- ・「防災に自ら取り組む人」「防災のことを周りに伝える人」になりたいです。
- ・災害時には「助けられる側」ではなく「助ける側」になれるよう、防災について学んでいきたい。

【 名古屋市港防災センターの視察 】

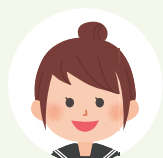


地震体験の様子



近藤氏とのトーク&質疑

地震体験や煙避難体験などを通して、改めて災害の恐ろしさを実感することができました。また、近藤氏とのトーク&質疑では、「避難所にペットを連れていけるのか」「家具の配置で気を付けておくべきことは」など、積極的に質問をする生徒の姿がありました。視察を通して、より切実感をもって防災について学んでいきたいという意欲を高めることができました。



- ・体験だけでも怖く、「本番」を想像すると不安になりました。その時までの準備の大切さを改めて知ることができました。
- ・体験を通して、被災地の人たちの辛さを知ることができました。この体験をこれからの学びに繋げられるように頑張ります。

【 救出救護技術講習会 】

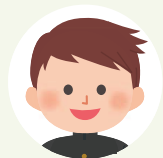


ロープ結索訓練の様子



「頭部被覆」を教わる

大規模災害が発生し負傷者が出た場合、中学生も「助ける側」になれることを実感できるよう、消防署職員の協力のもと、ロープ結索や三角巾を使っての応急処置、簡易担架作りなどを行いました。ロープ結索を誤ると緩んだり結び目が解けたりして危険であること、三角巾は清潔操作が必要であること、傷病者は足側から搬送することなど、体験を通して多くの学びがありました。



- ・難しいこともあったけれど、みんなで教え合いながらいろんな体験ができて楽しかったです。どの講習も、ただ見るだけでなく、実際にやってみることが大事だと思います。
- ・中学生なので、いざという時は支える側として、学んだことを生かして協力したいです。

